



## 家族のふれあい

家族のふれあいについて考える度に、以前新聞に投稿された心温まるエピソードのことを思い出します。母親の膝の上で爪を切ってもらっていた子どもの話です。「子どもに、お母さんの好きなところを聞くと、『膝にのせてくれて、爪を切ってくれる。』と、嬉しそうに答えた。」と、書いてありました。この記事に載っている子どもにとっては、爪を切ってもらった間、温かな膝の上で、お母さんが、自分のためにしてくれていることを心地よく感じていたのだと思います。記事を読んだ当時、私は我が子を保育園に預けながら日々忙しく過ごしていたため、なかなか我が子とふれあう時間がもてていないと思っていました。日常の中にある、ささやかなふれあいを意識すれば、少しは我が子にも親の愛情が伝わるだろうと、この記事に励まされました。

当時我が家の子どもたちは、寝る前のひとときに、アルプス一万尺の替え歌で踊ることが大好きでした。「前でパチンと後ろでポーズ、ぐるりと回ってジャンケンポン」という歌詞です。「前でパチン」は、両手を子どもと合わせ、「後ろでポーズ」は、一歩後ろに下がって、面白いポーズをとる。1回転してジャンケンをし、負けたらくすぐられる遊びです。あいこになったらハグをして踊ったことも、よい思い出です。

また、子どもと遊ぶ時間がとれないときには、「家事が終われば、絵本が読める！」など、『今は時間がとれないけれど、後でこうしたいと思っている』ということを実況中継のように子どもに伝えていたこともありました。子どもにとっても、親がどう思っているかが分かると安心し、見通しがもてたようです。今思うと、実際に親子でふれあうことをしていなくても、親が自分に心を向けていると感じる場面も、ちいさなふれあいとなっていたのかもしれない。

今回、家族ふれあいデーを幼稚園で実施することはできませんでしたが、各ご家庭での「ふれあいデー」にしようと、小さなことでも意識していただくと、子どもたちの心に、温かな気持ちが伝わることと思います。子どもたちが大好きな「ずいずいずっころばし」のダンスが、親子で楽しめるように、ネズミの耳をプレゼントします。このネズミの耳は、4月の緊急事態宣言中に、職員が作成した物です。どんな大変なときも、次の楽しいことを考えながら準備するたくましさも、今の時代に欠かせないと感じています。是非一緒に踊ってみてください。ジャンケンに勝ったら、相手をくすぐるということにする遊びは、おすすめです！おうちで楽しい「家族ふれあいデー」になりますように。



### もり組のカルタ作り

もり組では、自分で考えた「カルタ」を作りました。

㊦んがしょうがきて、うれしいな……最近嬉しかったことを思い出していました。



㊦うちえん いつも たのしいな……楽しいことを思い浮かべると、幼稚園の㊦が多くなるのも素敵です。

㊦うちえんの きゅうりは おいしいな……なんと、野菜が苦手なお子さんの作品！食育の成果です。

㊦イングスキップ 20かい ちょうせんちゅう……次の目当てが意識された一句です。

子どもたちが、カルタの言葉を考えることは、自分がこれまで楽しんできたことや頑張ってきたことを振り返るよい機会にもなっています。頑張った自分を絵にするのですから、子どもたちは、きっと自分に自信がもてたことと思います。自己肯定感や、知的好奇心を育む、「遊びの中の学び」を今年も大切に保育します。